

**第20回日本乳癌学会中国四国地方会
教育セミナー—治療編**

**HER2陰性乳癌に対する周術期薬物療法
(症例2)**

川崎医科大学総合医療センター 外科 太田 裕介

症例：51歳 女性

【現病歴】

前医のM G 検診で左乳房腫瘍を指摘され乳腺外来受診。
左乳房1時方向に最大径20.9mmの腫瘍認められた。

CNBでIDC(solid/TNBC・Ki67 68%) の診断。

治療目的で紹介。

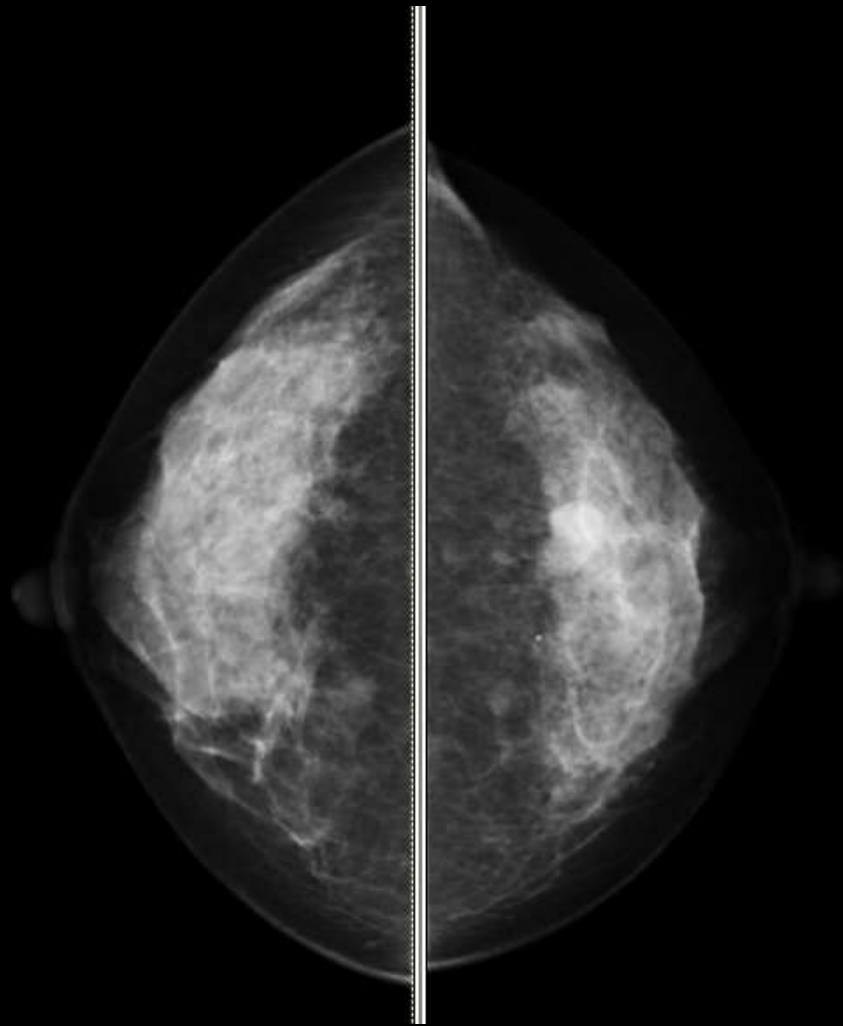
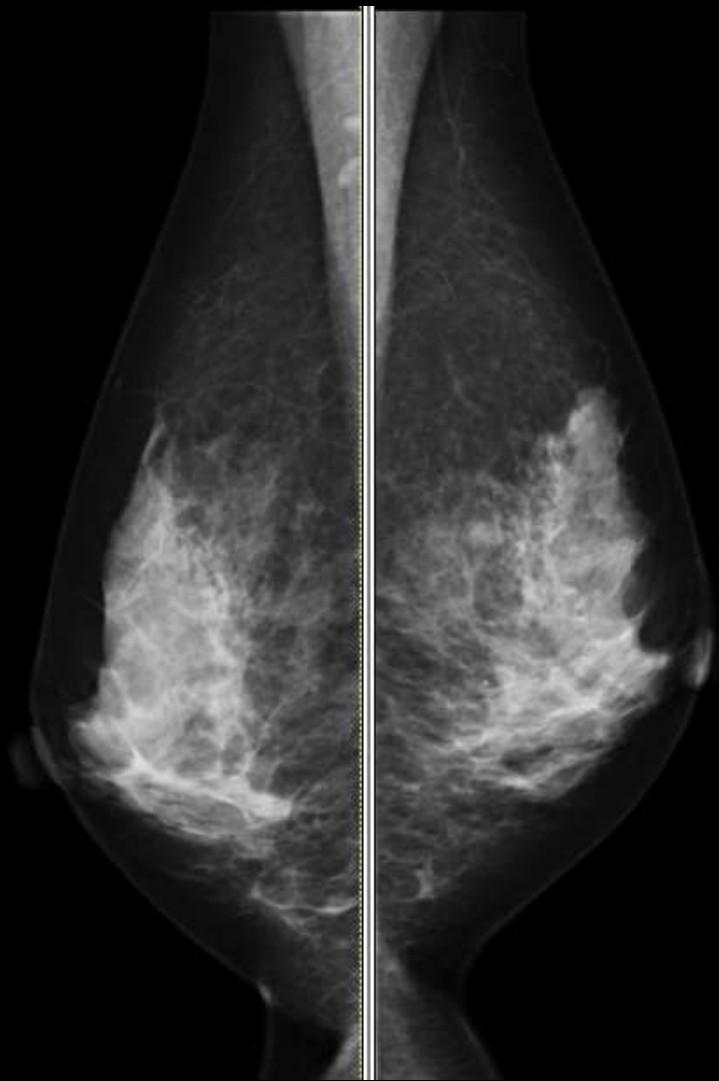
【既往歴】 特記事項なし 【内服薬】 なし

【家族歴】 乳癌なし、卵巣癌なし 父が肺癌、母が家族性ポリポーシス

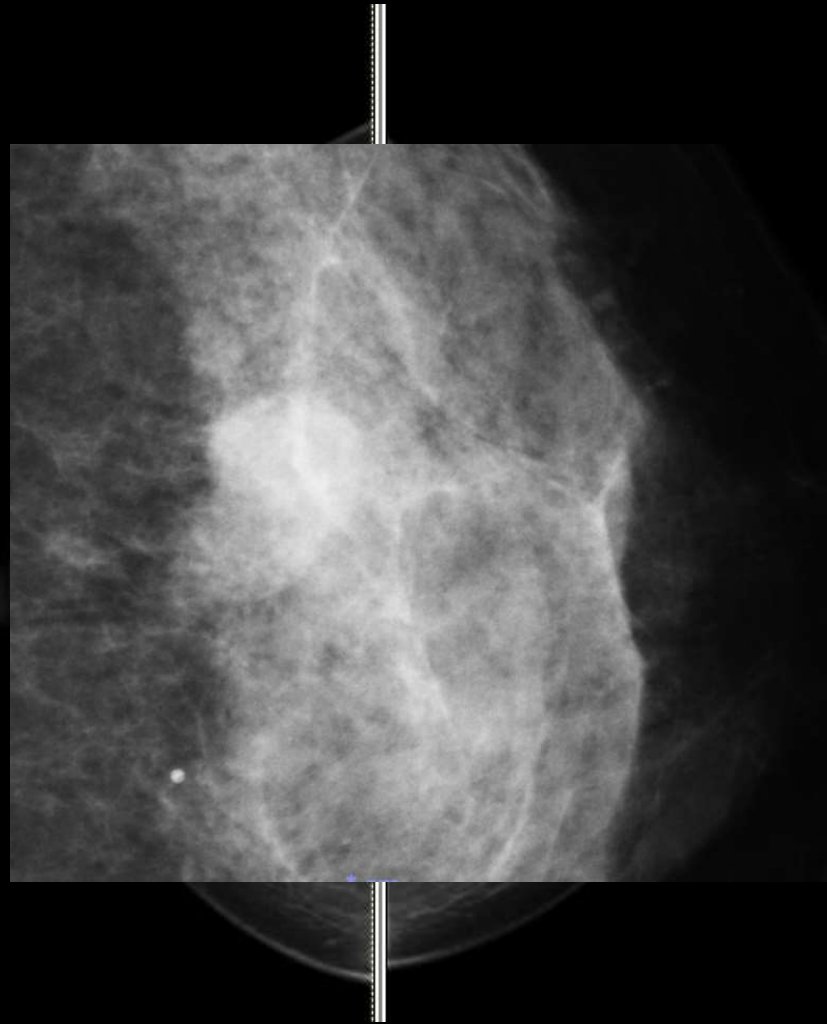
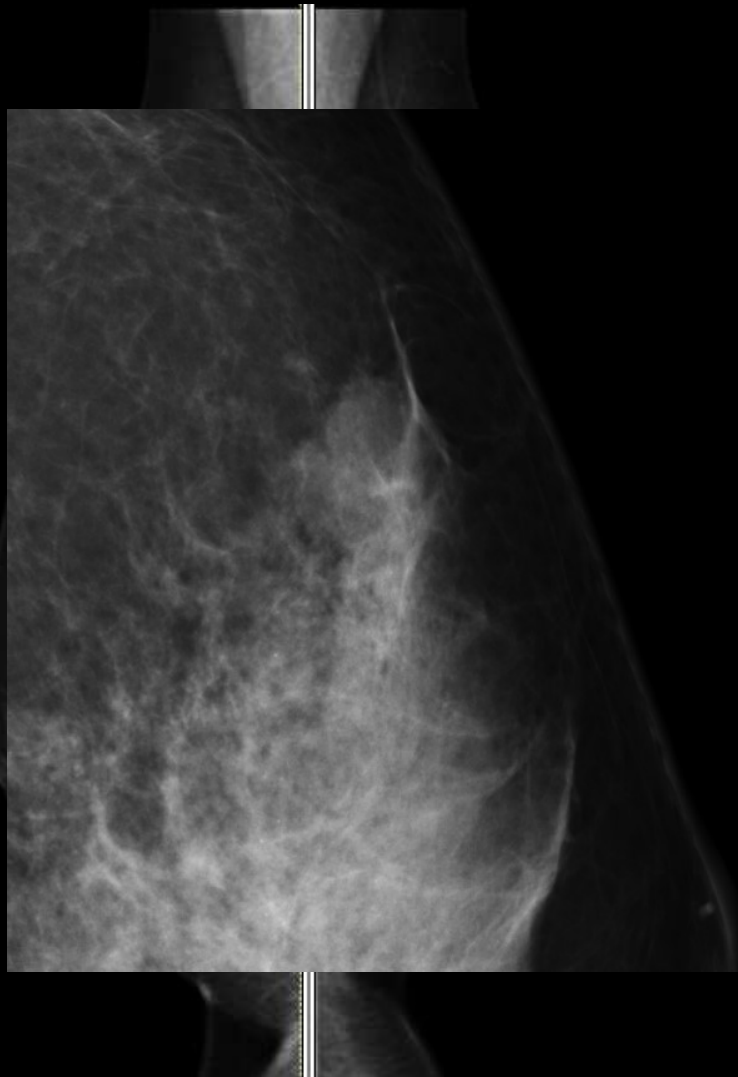
【女性歴】 初経14歳、2経妊0経産、閉経未

【嗜好歴】 喫煙40本/日、飲酒なし

【MG】 C1/C4 左M/O I に境界不明瞭腫瘤

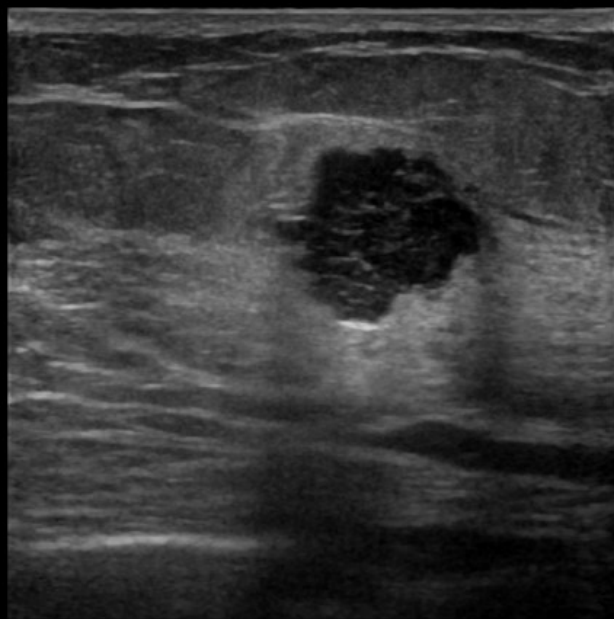


【MG】 C1/C4 左M/O I に境界不明瞭腫瘤



【BUS】

左乳房2時方向に20.9×13.4×11.8mm大の境界明瞭粗造な分葉状の低エコー腫瘤あり、内部不均質・後方エコー増強
明らかな腋窩リンパ節腫大なし

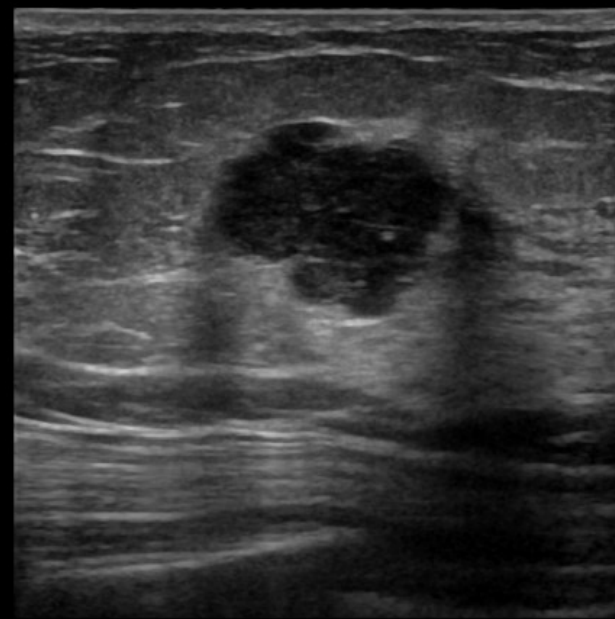


(H)



FR:26
L75

BG:8 DR:65
HdTHI-R

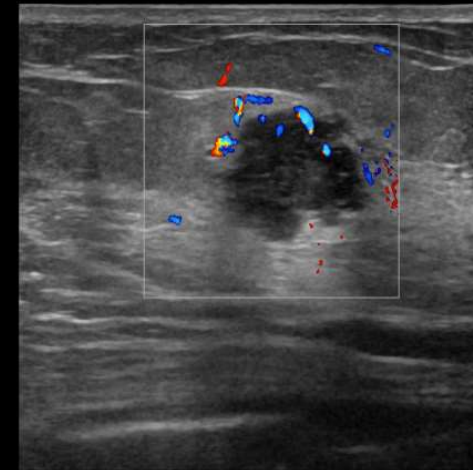
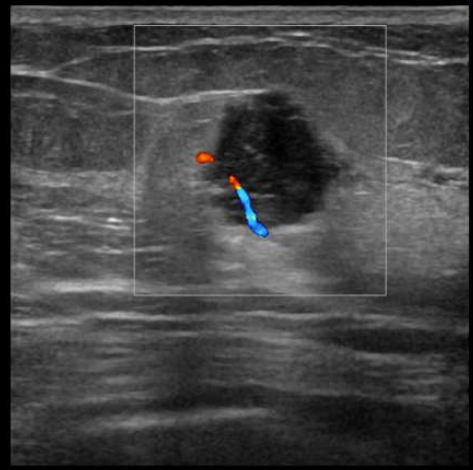


(H)

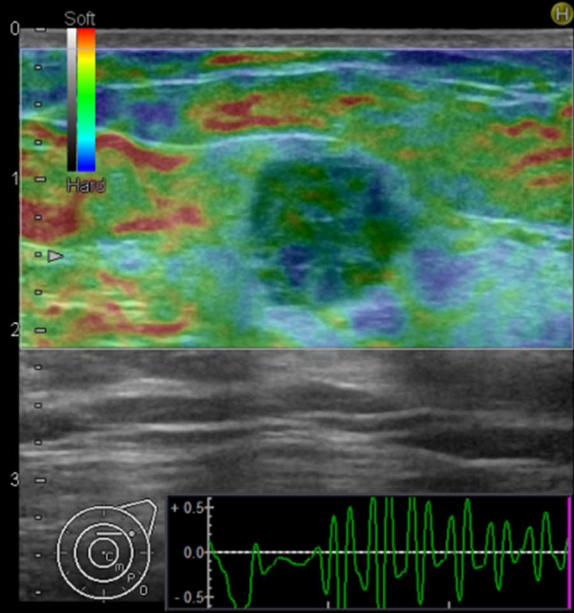
FR:26
L75

BG:8 DR:65
HdTHI-R

-0
-1
-2
-3



0
-1
-2
-3
-4
-5



FR:15
L75

BG:12 DR:65 F.Rej:7 N.Rej:3
HdTHI-R BL.:26% L75

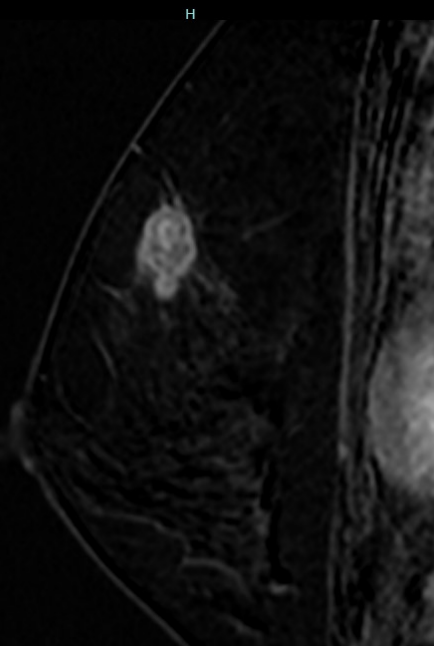
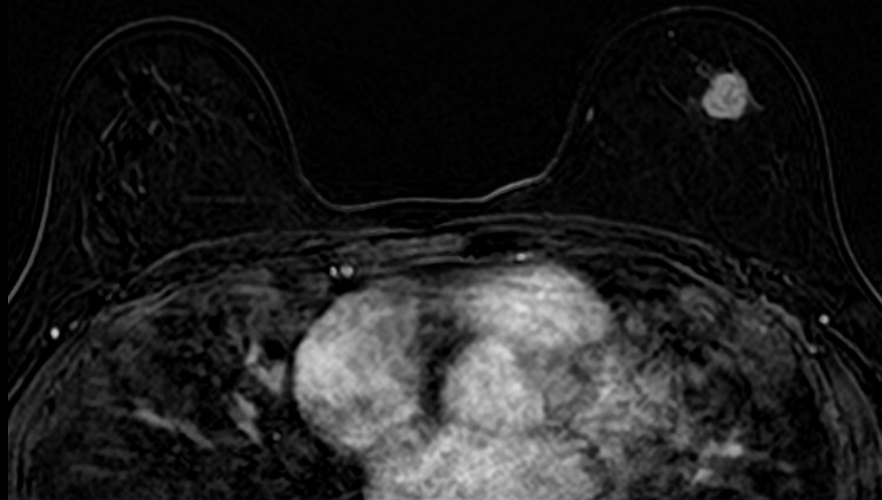
BG:12 DR:65
HdTHI-R

FR:10 L75 BG:12 DR:65 CG:40 CF:M HdTHI-R 400/6.5MHz

【針生検】 IDC,ER:0%,PR:0%,HER2:0,Ki67:68.0%

診断結果:	悪性
病理診断:	Mammary gland, CNB: Malignant Invasive ductal carcinoma, solid type ER-, PR-, HER2-, Ki-67 index 68%
病理所見:	<p>組織学的に腫大し、大小不同の核を有する、ややN/Cの高い異型細胞が大小の胞巣を形成しながら浸潤増殖しています。索状配列もみられます。胞巣内に壊死巣がみられます。p63では胞巣内に陽性細胞はなく、充実型の浸潤性乳管癌と考えます。核分裂像が多数散見されます(21個/10HPFs)。胞巣周囲には慢性炎症細胞の浸潤が比較的目立ちます。</p> <p>免疫染色ではER, PR, HER2(いずれも陰性です。Ki-67 index 68%程度です。</p> <p>【乳癌取扱い規約(第18版)】</p> <p>It, C, CNB, malignant, invasive ductal carcinoma, solid type, 石灰化なし、核異型度:高度(Grade3)、組織学的異型度:高度(GradeⅢ)、免疫染色: ER - (0%, J-score 0, PS0+IS0=TS0), PR -(0%, J-score 0, PS0+IS0=TS0), HER2陰性(score 0), Ki-67 index 68%</p>

【造影乳房MRI】

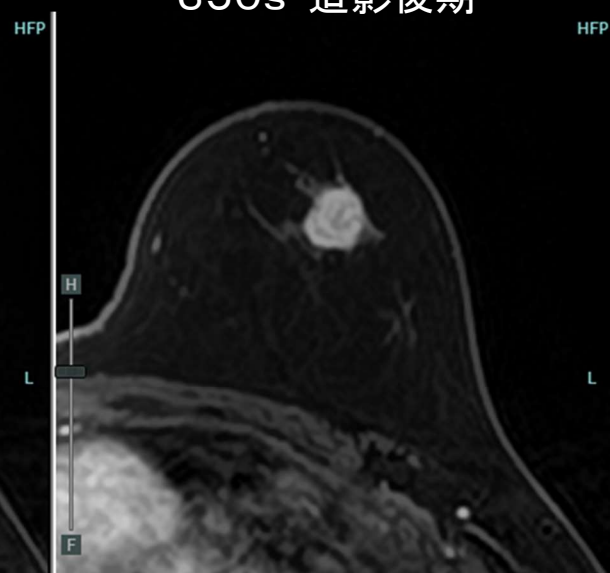
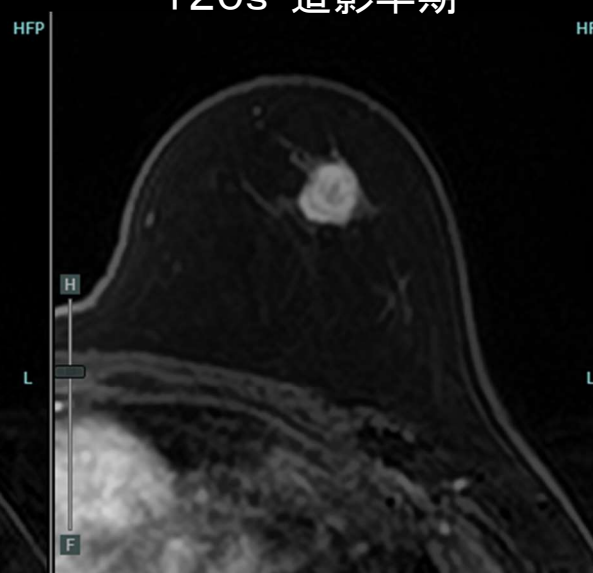
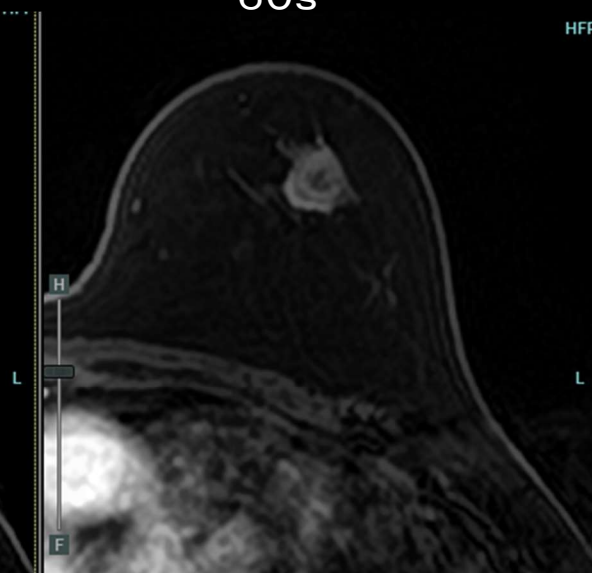


造影前

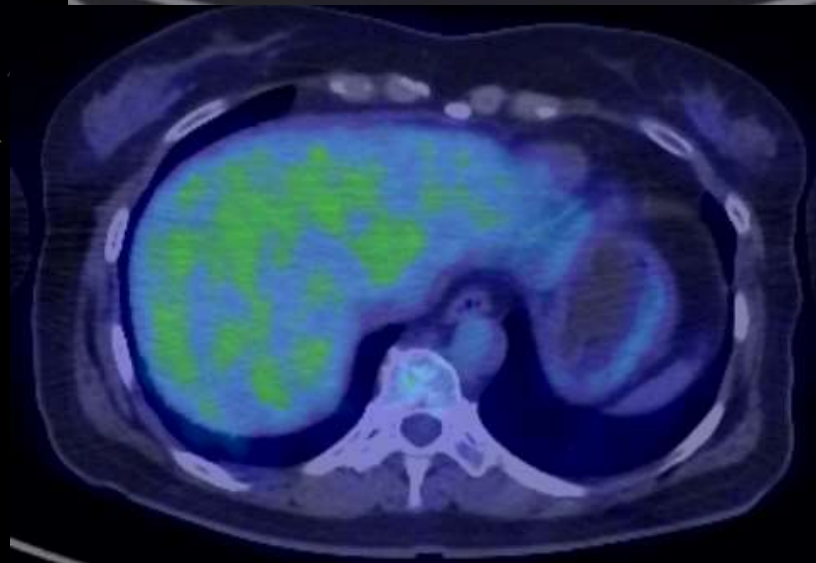
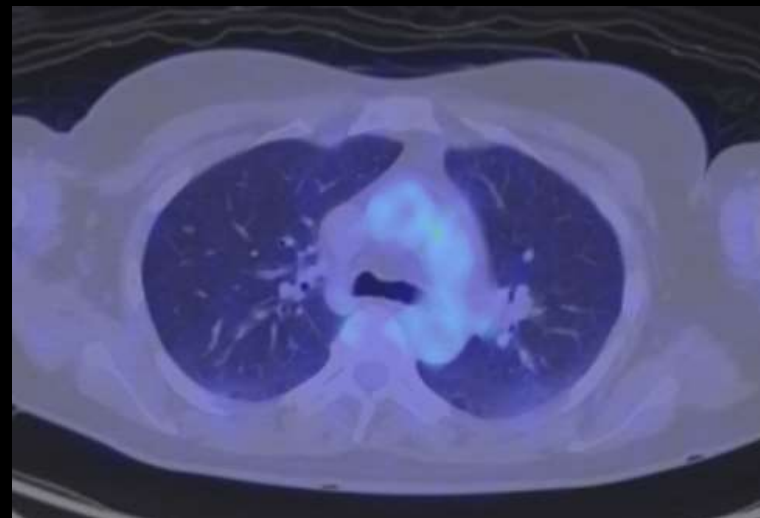
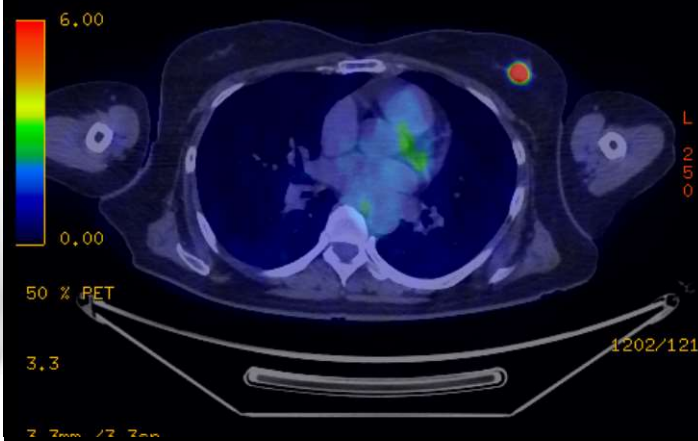
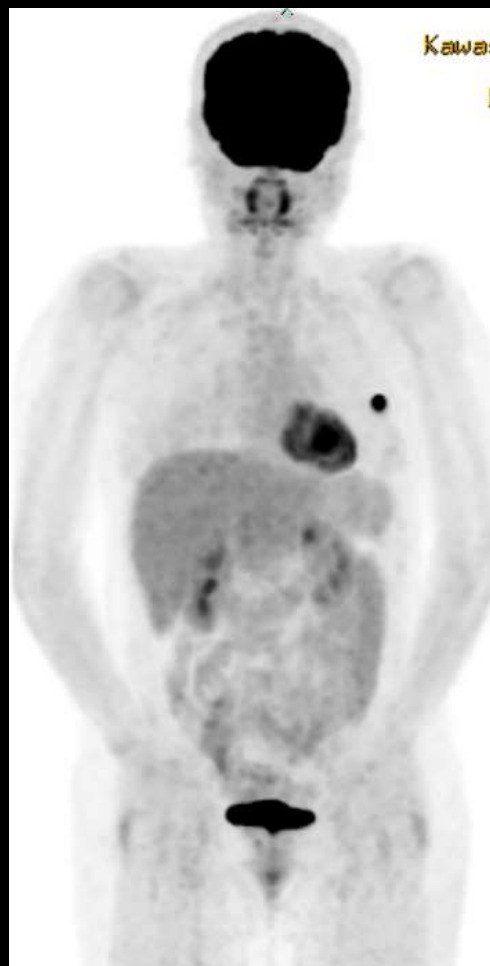
60s

120s・造影早期

350s・造影後期



【PET/CT】 左乳腺AC区域にFDG集積を認める結節(+)、遠隔転移(-)



51歳・女性 (PS:0)

診断: 左乳癌 cT2, N0, M0、stage II A

ER : 0%、 PR : 0%、 HER2 : 陰性、 Ki67 : 68.0%

 **cT2、N0、TNBC (51歳)**

追加検査・治療選択は？

【治療選択】

質問 1 .

術前化学療法 or 手術先行？ （追加検査は？）

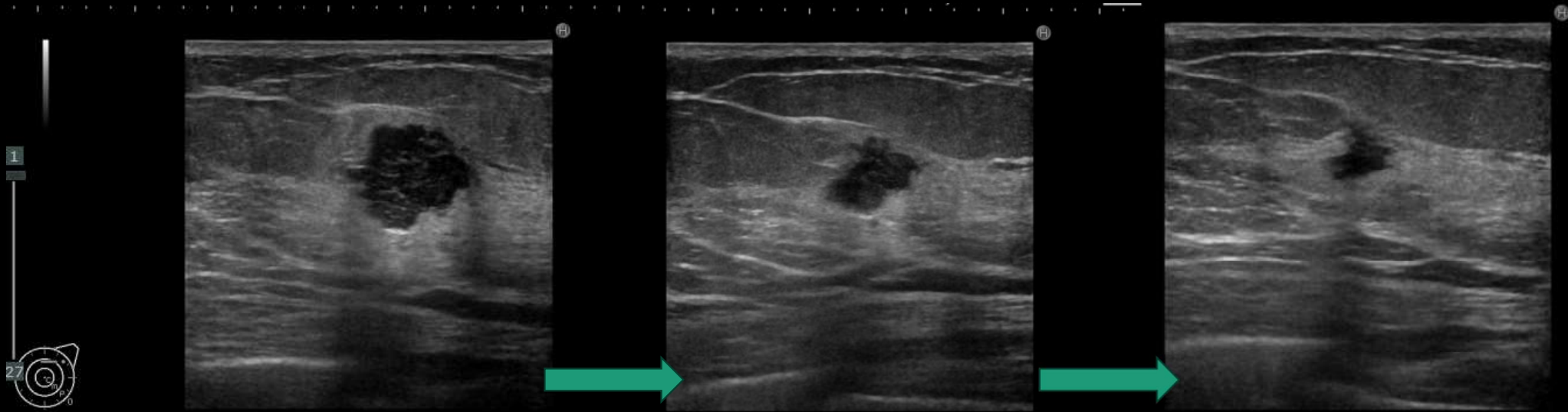
質問 2 .

術前化学療法をするのであれば何を選ぶか？

- ① **ペンブロリズマブ + 化学療法**
- ② **化学療法（アンストラサイクリン⇒タキサン）**
- ③ **その他**

本症例は、、、

- Pembrolizumab + 化学療法での術前化学療法をICLし同意されたが、治療日に化学療法のみでの術前化学療法を希望された。
- BRCA遺伝学的検査はICLし同意されたため、担当外来に紹介したが検査に同意されなかったため実施しなかった。



NAC : ddEC× 4 サイクル wPTX× 4 サイクル



【術前診断】左乳癌(solid/TNBC) cT2N0M0 Stage II
→NAC後 cT1N0M0 stage I (cPR)

【手術】It Bt (NSM) +SN (再建は後日検討を希望された。)

【病理結果】

ypT1b(浸潤径 **7mm**), invasive ductal carcinoma, solid type,
g, Ly0, V0、NG3,HGⅢ

ER陰性(0%), PR陰性(0%), HER2陰性(スコア 1), Ki67陽性率 82.7%,
pN0(0/2)(sn), M0,

組織学的治療効果：**Grade 1a**

術前化学療法後non-pCRの場合の術後補助療法

- 質問3.

TNBCに対してアンストラサイクリン系+タキサン系による術前化学療法にてnon-pCRの場合の術後補助療法は何を選択する？

(1) BRCA病的バリエーション陽性の場合

(2) BRCA病的バリエーション陰性の場合

①カペシタビン

②オラパリブ

③ペンブロリスマブ

④経過観察

⑤その他

術前化学療法後non-pCRの場合の術後補助療法

・質問4.

TNBCに対してICI併用術前化学療法にてnon-pCRの場合の術後補助療法は何を選択する？

(1) BRCA病的バリエーション陽性の場合

(2) BRCA病的バリエーション陰性の場合

①ペンブロリズマブ

②カペシタビン

③オラパリブ

④その他